

取扱いの趣旨

乳腺穿刺は、細い針（ファインニードル等）を乳房に穿刺し、吸引して細胞を含んだ穿刺液にて実施し、この場合の病理は穿刺吸引細胞診により算定するものであることから、原則として乳腺穿刺（穿刺液）に対する病理組織標本作製の算定は、原則として認められない。

支払基金が公表している取扱いの全文

【病理診断】

《令和2年7月27日》

29 乳癌の診断においてD410乳腺穿刺又は針生検（片側）「2」その他により採取した検体を用いた場合のN000病理組織標本作製の算定について

○ 取扱い

乳癌の診断において、D410乳腺穿刺又は針生検（片側）「2」その他により採取した検体を用いた場合、N000病理組織標本作製の算定は原則として認めない。

○ 取扱いを作成した根拠等

D410乳腺穿刺又は針生検（片側）「2」その他は、細い針（ファインニードル等）を乳房の目的部位に直視下あるいは超音波下に誘導して穿刺、吸引して細胞を含んだ穿刺液を得る採取料であり、病理標本作製料はN004細胞診「2」穿刺吸引細胞診、体腔洗浄等によるものを算定するものである。

N000病理組織標本作製の検体採取は、D410乳腺穿刺又は針生検（片側）「1」生検針によるもの又はD417組織試験採取、切採法「10」乳腺により算定するものであり、D410乳腺穿刺又は針生検（片側）「2」その他により算定するものではない。

乳癌の診断時に実施されるN000病理組織標本作製は、「腫瘍（しこり）部分に太い針（コアニードル等）を刺し、細胞一つ一つではなく組織の塊を切り取ることで良性か悪性かの鑑別を行い、鑑別だけでなく、悪性の場合は特徴まで把握できる」病理診断である。

乳癌の診断においては、細胞診用に採取された検体から組織検体のようなパラフィンブロックを作成するセルフブロック法がある。

セルフブロック法については、N000病理組織標本作製の留意事項通知に「「セルフブロック法によるもの」は、悪性中皮腫を疑う患者又は組織切片を検体とした病理組織標本作製が実施困難な肺悪性腫瘍、胃癌、大腸癌、卵巣癌若しくは悪性リンパ腫を疑う患者に対して、穿刺吸引等により採取した検体を用いてセルフブロック法により標本作製した場合に算定する」と示されているが、乳癌における取扱いは、病理標本作製料の告示及び留意事項通知に示されていない。

日本乳癌学会乳癌診療ガイドライン2015年版において、セルフブロック標本によるHER2のIHC法の信頼性については、原発巣ないし転移巣からの針生検ないし切除標本と、穿刺吸引細胞診検体を用いたセルフブロック標本との比較による検討において、アルコール固定された場合の一致率が悪く、一定の見解を得るには至っていないとされている。

乳癌におけるセルフブロック法は、告示及び留意事項通知に示されていないこと、また、診断結果の信頼性が十分ではないことから、N000病理組織標本作製により算定することはできないが、組織採取ができない場合等やむを得ない理由がある場合は、その可否を医学的に判断する必要がある。

以上のことから、乳癌の診断においてD410乳腺穿刺又は針生検（片側）「2」その他により採取した検体を用いた場合、N000病理組織標本作製の算定は、原則認められないと判断した。

初回検証から早期確認を経た1年後検証の改善状況及び今後の対応

令和5年10月の少数事例の基準の整理により、フォローアップ対象都道府県はなし

1年後検証で10都道府県改善

1年後検証終了時点の改善都道府県数

40

■都道府県の改善状況

初回検証の未改善都道府県数	早期確認の未改善都道府県数	1年後検証の未改善都道府県数
17	5	7

■誤り件数の改善状況

要因別	初回検証の誤り件数/年	早期確認の誤り件数 /3か月（年換算）	改善率	1年後検証の誤り件数 /6か月（年換算）	改善率
職員	68	4（16）	76.5%	1（2）	97.1%
審査委員	52	3（12）	76.9%	12（24）	53.8%
合計	120	7（28）	76.7%	13（26）	78.3%

■1年後検証で未改善の7都道府県に対する今後のフォローアップ対応

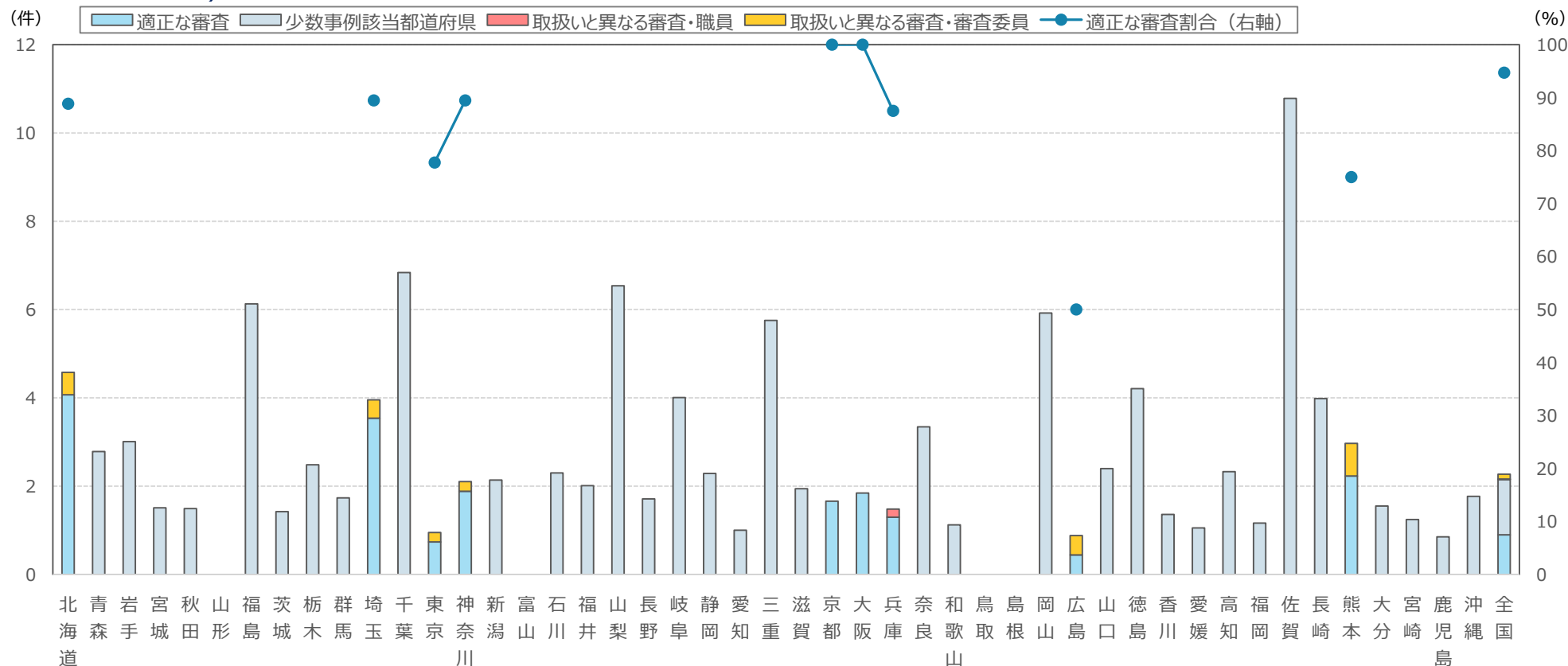
要因別	※未改善の都道府県（対象1万件当たり件数の多い順）	今後のフォローアップ対応
職員	兵庫	○当該事例に係るCCの審査結果データを本部で取得。 取扱いと異なる審査結果のリストを作成し、地方組織へ還元。 ○地方組織は当該リストに基づき、当月審査において担当審査委員や審査調整役等へ確認。 ○未改善の7都道府県については1年以内に再度フォローアップ結果を公表する。
審査委員	熊本、北海道、広島、埼玉、神奈川、東京	

※未改善の都道府県は、取扱いと異なる審査が年間10件以上（今回の検証は6ヶ月間の数値のため、5件以上）又は、取扱いと異なる審査の割合が1割以上の都道府県

グラフの見方

2022年10月～2023年3月審査分

- 棒グラフ（該当レセプトの審査結果）
病理組織標本作製を算定している目視対象レセプト1万件当たり、条件（同日に病理組織標本作製と乳腺穿刺又は針生検（片側「2」を算定）に該当するレセプト件数
- 折れ線グラフ
適正な審査割合：94.74%（少数事例該当都道府県を含む取扱いと異なる審査割合：5.26%）
- 少数事例該当都道府県は初回検証結果又は1年後検証の検証前データより、取扱いと異なる審査が年間10件未満（フォローアップ検証は6ヶ月間の数値のため、4件以下）かつ、取扱いと異なる審査の割合が1割未満となった都道府県（検証対象外都道府県）



該当件数	18	2	2	2	1	0	6	3	4	2	19	35	18	19	3	0	2	1	3	2	6	7	6	6	2	4	19	8	4	1	0	0	9	2	2	2	1	1	1	5	6	3	4	2	1	1	2	247
適正な審査件数・少数事例件数	16	2	2	2	1	0	6	3	4	2	17	35	14	17	3	0	2	1	3	2	6	7	6	6	2	4	19	7	4	1	0	0	9	1	2	2	1	1	1	5	6	3	3	2	1	1	2	234

【該当件数】 同日に病理組織標本作製と乳腺穿刺又は針生検（片側）「2」を算定しているレセプト件数

該当件数に対する検証結果

2022年10月～2023年3月審査分

検証の結果、該当件数247件のうち、**取扱いと異なる審査が13件（5.26%）**

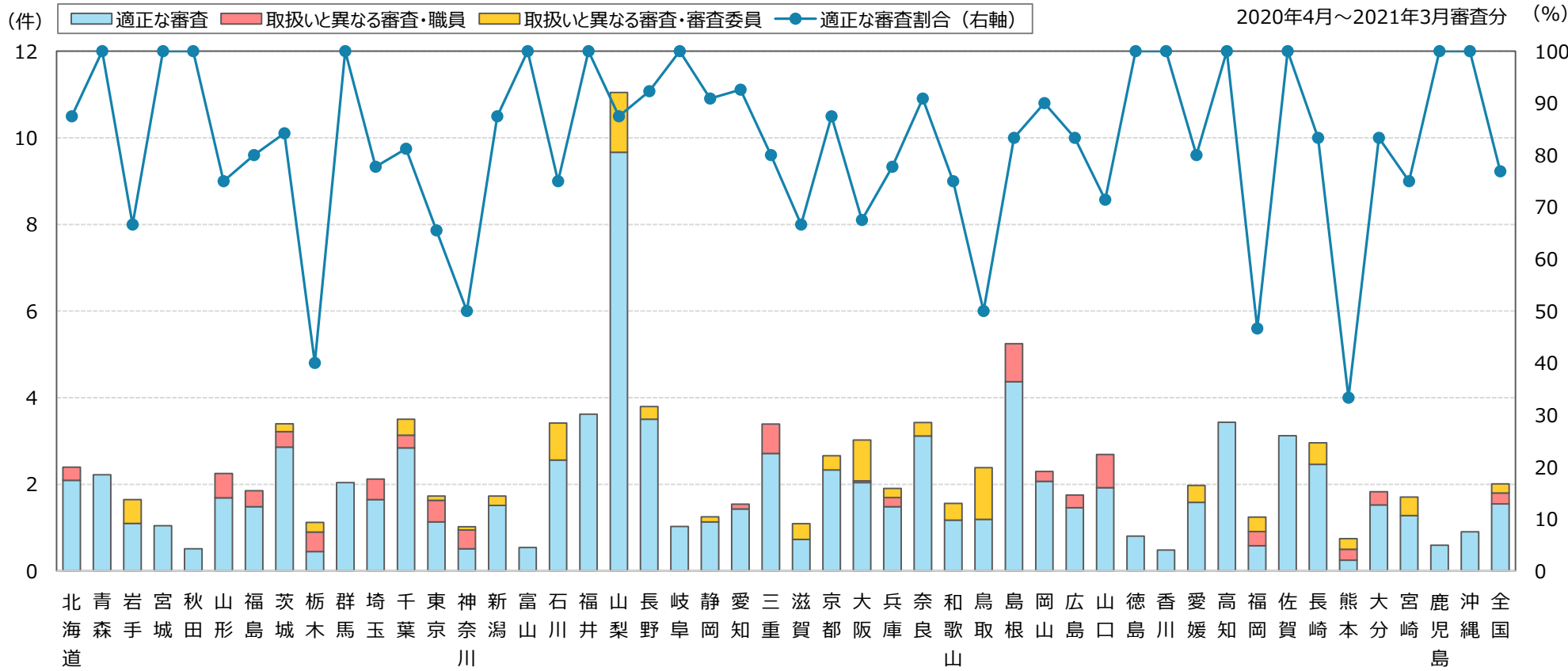
都道府県	検証結果												都道府県	検証結果													
	該当件数	取扱いに基づく適正な審査							取扱いと異なる審査 （ＣＣ解除等の誤処理）					該当件数	取扱いに基づく適正な審査							取扱いと異なる審査 （ＣＣ解除等の誤処理）					
	計	適正 審査 合計	少数事例 該当都道府県 の該当件数	適正審査 の割合	査定・返戻		請求どおり	取扱いの 認識誤り 合計	取扱いの 認識誤り の割合	職員	審査委員	計		適正 審査 合計	少数事例 該当都道府県 の該当件数	適正審査 の割合	査定・返戻		請求どおり	取扱いの 認識誤り 合計	取扱いの 認識誤り の割合	職員	審査委員				
01	北海道	18	16	0	88.89%	15	1	16	0	2	11.11%	0	2	25	滋賀	2	0	2									
02	青森	2	0	2										26	京都	4	4	0	100.00%	0	2	2	2	0	0.00%	0	0
03	岩手	2	0	2										27	大阪	19	19	0	100.00%	11	4	15	4	0	0.00%	0	0
04	宮城	2	0	2										28	兵庫	8	7	0	87.50%	4	3	7	0	1	12.50%	1	0
05	秋田	1	0	1										29	奈良	4	0	4									
06	山形	-	-	-										30	和歌山	1	0	1									
07	福島	6	0	6										31	鳥取	-	-	-									
08	茨城	3	0	3										32	島根	-	-	-									
09	栃木	4	0	4										33	岡山	9	0	9									
10	群馬	2	0	2										34	広島	2	1	0	50.00%	1	0	1	0	1	50.00%	0	1
11	埼玉	19	17	0	89.47%	12	5	17	0	2	10.53%	0	2	35	山口	2	0	2									
12	千葉	35	0	35										36	徳島	2	0	2									
13	東京	18	14	0	77.78%	12	0	12	2	4	22.22%	0	4	37	香川	1	0	1									
14	神奈川	19	17	0	89.47%	11	6	17	0	2	10.53%	0	2	38	愛媛	1	0	1									
15	新潟	3	0	3										39	高知	1	0	1									
16	富山	-	-	-										40	福岡	5	0	5									
17	石川	2	0	2										41	佐賀	6	0	6									
18	福井	1	0	1										42	長崎	3	0	3									
19	山梨	3	0	3										43	熊本	4	3	0	75.00%	2	1	3	0	1	25.00%	0	1
20	長野	2	0	2										44	大分	2	0	2									
21	岐阜	6	0	6										45	宮崎	1	0	1									
22	静岡	7	0	7										46	鹿児島	1	0	1									
23	愛知	6	0	6										47	沖縄	2	0	2									
24	三重	6	0	6										全国	247	98	136	94.74%	68	22	90	8	13	5.26%	1	12	

※都道府県の数値全てをグレーで網掛けした都道府県は1年後検証終了時点の改善都道府県

※少数事例該当都道府県の該当件数は初回検証の結果又は1年後検証の検証前データより、取扱いと異なる審査が年間10件未満（フォローアップ検証は6ヶ月間の数値のため、4件以下）かつ、取扱いと異なる審査の割合が1割未満となった都道府県の該当件数（検証対象の都道府県は0を記載）

グラフの見方

- 1 棒グラフ（該当レセプトの審査結果）
病理組織標本作製を算定しているレセプト1万件当たり、条件（同日に病理組織標本作製と乳腺穿刺又は針生検（片側「2」を算定）に該当するレセプト件数
- 2 折れ線グラフ
検証の結果、適正な審査をしている割合（全国 76.88%）



【該当件数】 同日に病理組織標本作製と乳腺穿刺又は針生検（片側）「2」を算定しているレセプト件数

2020年4月～2021年3月審査分

該当件数に対する検証結果

検証の結果、該当件数597件のうち、**459件（76.88%）が適正な審査結果（検証前は73.70%）**
CCの解除等による誤処理が138件（23.12%）

⇒概評：請求どおり（157件）を検証の結果、適正審査と確認されたレセプトは、傷病名や症状詳記等から、乳癌診断以外の患者に対して、病理組織標本作製を必要とした事例であった。

支部	検証結果										
	該当件数	取扱いに基づく適正な審査						取扱いと異なる審査 （CC解除等の誤処理）			
		適正 審査 合計	適正審査 の割合	査定・返戻			請求等から 適正	取扱いの 認識誤り 合計	取扱いの 認識誤り の割合	職員	審査委員
				査定	返戻	査定 返戻 計					
01 北海道	24	21	87.50%	6	15	21	0	3	12.50%	3	0
02 青森	4	4	100.00%	4	0	4	0	0	0.00%	0	0
03 岩手	3	2	66.67%	1	1	2	0	1	33.33%	0	1
04 宮城	4	4	100.00%	4	0	4	0	0	0.00%	0	0
05 秋田	1	1	100.00%	0	0	0	1	0	0.00%	0	0
06 山形	4	3	75.00%	1	2	3	0	1	25.00%	1	0
07 福島	5	4	80.00%	3	1	4	0	1	20.00%	1	0
08 茨城	19	16	84.21%	5	11	16	0	3	15.79%	2	1
09 栃木	5	2	40.00%	1	0	1	1	3	60.00%	2	1
10 群馬	7	7	100.00%	5	2	7	0	0	0.00%	0	0
11 埼玉	27	21	77.78%	18	3	21	0	6	22.22%	6	0
12 千葉	48	39	81.25%	12	27	39	0	9	18.75%	4	5
13 東京	87	57	65.52%	11	45	56	1	30	34.48%	25	5
14 神奈川	26	13	50.00%	6	7	13	0	13	50.00%	11	2
15 新潟	8	7	87.50%	3	4	7	0	1	12.50%	0	1
16 富山	1	1	100.00%	1	0	1	0	0	0.00%	0	0
17 石川	8	6	75.00%	6	0	6	0	2	25.00%	0	2
18 福井	5	5	100.00%	2	3	5	0	0	0.00%	0	0
19 山梨	16	14	87.50%	6	8	14	0	2	12.50%	0	2
20 長野	13	12	92.31%	1	7	8	4	1	7.69%	0	1
21 岐阜	4	4	100.00%	0	4	4	0	0	0.00%	0	0
22 静岡	11	10	90.91%	8	2	10	0	1	9.09%	0	1
23 愛知	27	25	92.59%	4	18	22	3	2	7.41%	2	0
24 三重	10	8	80.00%	6	2	8	0	2	20.00%	2	0
25 滋賀	3	2	66.67%	2	0	2	0	1	33.33%	0	1
26 京都	16	14	87.50%	11	3	14	0	2	12.50%	0	2
27 大阪	77	52	67.53%	38	14	52	0	25	32.47%	1	24
28 兵庫	27	21	77.78%	11	10	21	0	6	22.22%	3	3
29 奈良	11	10	90.91%	9	1	10	0	1	9.09%	0	1
30 和歌山	4	3	75.00%	3	0	3	0	1	25.00%	0	1
31 鳥取	2	1	50.00%	0	1	1	0	1	50.00%	0	1
32 島根	6	5	83.33%	3	2	5	0	1	16.67%	1	0
33 岡山	10	9	90.00%	3	3	6	3	1	10.00%	1	0
34 広島	12	10	83.33%	7	1	8	2	2	16.67%	2	0
35 山口	7	5	71.43%	5	0	5	0	2	28.57%	2	0
36 徳島	1	1	100.00%	0	1	1	0	0	0.00%	0	0
37 香川	1	1	100.00%	1	0	1	0	0	0.00%	0	0
38 愛媛	5	4	80.00%	2	1	3	1	1	20.00%	0	1
39 高知	4	4	100.00%	3	1	4	0	0	0.00%	0	0
40 福岡	15	7	46.67%	4	0	4	3	8	53.33%	4	4
41 佐賀	5	5	100.00%	5	0	5	0	0	0.00%	0	0
42 長崎	6	5	83.33%	5	0	5	0	1	16.67%	0	1
43 熊本	3	1	33.33%	0	1	1	0	2	66.67%	1	1
44 大分	6	5	83.33%	1	4	5	0	1	16.67%	1	0
45 宮崎	4	3	75.00%	2	1	3	0	1	25.00%	0	1
46 鹿児島	2	2	100.00%	2	0	2	0	0	0.00%	0	0
47 沖縄	3	3	100.00%	0	3	3	0	0	0.00%	0	0
全国	597	459	76.88%	231	209	440	19	138	23.12%	75	63